

## 指定管理者評価シート

事業名	生涯学習センター運営管理費	所管課(電話番号)	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	-----------------------------

## I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市生涯学習センター (札幌市教育センター開放施設を含む)	所在地	西区宮の沢1条1丁目
開設時期	平成12年8月25日	延床面積	12,106㎡
目的	市民に自主的な活動及び交流の場を提供し、生涯にわたる学習活動を総合的に支援することにより、豊かな生涯学習社会の実現を図る。		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習に関する学習機会の提供及び指導者等の人材育成に関すること。</li> <li>・生涯学習に関する調査、研究、企画立案及び啓発に関すること。</li> <li>・生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関すること。</li> <li>・生涯学習に関する事業を行う団体の連携及び交流の支援に関すること。</li> <li>・学習成果の発表及び鑑賞の支援に関すること。</li> <li>・生涯学習センターの施設を使用に供すること。</li> <li>・その他生涯学習センターの設置目的を達成するために必要な事業。</li> </ul>		
主要施設	ホール、講堂、研修室、音楽・演劇スタジオ、メディアプラザ(図書、視聴覚、学習相談コーナー)等		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	平成26年4月1日～平成30年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由: 非公募の場合、その理由: 当該施設は、札幌市における生涯学習施策を推進していくための総合的な中核施設であり、指定管理者には生涯学習に関する専門的な知識や事業の企画立案に関するノウハウが必要であるとともに、運営管理にあたっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成が必要であることから非公募とした。		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸室業務、学習機会提供事業、学習活動支援事業等		
3 評価単位	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 平成29年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 学習ニーズを踏まえた市民参画による魅力的な事業を推進した。</li> <li>▼ 有機的なネットワークの形成と学びのコミュニティを創造した。</li> <li>▼ 創意工夫による効率的・効果的な事業運営と施設運営を継続した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針に基づき、管理運営を実施することができた。</li> <li>・利用者をはじめ市民からの要望等を踏まえ、学習成果を生かす場を充実させるなど、市民ニーズに応える事業を実施することができた。</li> <li>・民間企業や行政機関、専門機関などと連携し、それぞれの持つノウハウとネットワークを生かした、高度な学習機会を提供することができた。</li> <li>・ご近所先生企画講座において、講座後のサークル化を積極的に促し、受講者間のつながりを継続できるよう支援した。</li> <li>・利用者の多種多様な学習活動に適した施設利用方法を提案することや、計画的修繕等を実施することで利用者の利便性向上と安全確保を図ることができた。</li> </ul>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td colspan="4">                     ・適正な管理運営により要求水準を達成していると認められる。                      また、生涯学習センター他3施設からなる生涯学習総合センターの施設管理においても、統括的な役割を果たしたことについては評価したい。                 </td> </tr> </table>	A	B	C	D	・適正な管理運営により要求水準を達成していると認められる。 また、生涯学習センター他3施設からなる生涯学習総合センターの施設管理においても、統括的な役割を果たしたことについては評価したい。			
	A	B	C	D							
・適正な管理運営により要求水準を達成していると認められる。 また、生涯学習センター他3施設からなる生涯学習総合センターの施設管理においても、統括的な役割を果たしたことについては評価したい。											
<p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 貸室の平等利用を図るため、毎月抽選による受付を実施した。抽選受付は先着順とし、受付方法についての効率化や分かりやすい説明を心がけた。</li> <li>▼ 講座の受講機会の平等を図るため、受講希望者多数時にはコンピュータによる自動抽選を実施した。</li> <li>▼ 多くの市民に情報を提供するため、HPや広報誌の発行、広報さっぽろへの掲載などの広報活動を行った。</li> <li>▼ 貸出ロッカーについて、広く利用者が平等に利用できるよう、抽選方式を採用した。</li> </ul> <p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係条例や規則の遵守に努め、平等利用の原則を確保することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出ロッカーについて抽選方式を導入するなど、より平等な利用方法について模索を続ける取組については、高く評価したい。</li> <li>平等利用の確保は、公の施設の管理運営上の大前提であることから、今後も市民の声に耳を傾けながら、取組を進めていきたい。</li> </ul>									

<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 事務用品について、リサイクル商品や、詰め替えて再利用できるものを積極的に使用し、ゴミの軽減に努めた。また、再生紙利用の推進、資源回収によるゴミのリサイクル化など環境配慮に努めた。</li> <li>▼ 過剰冷房・暖房を控え、事務室の設定温度の上・下限を定めるとともに、5月～9月はクールビズ、11月～3月はウォームビズを実施した。また、貸室においても、利用者に対して設定温度での空調利用を要請した。</li> <li>▼ 利用者に支障が生じない範囲で、館内の照明間引きを増やし、トイレの便座暖房の抑制、使用していない部屋の照明の消灯を徹底するなど、節電に努めた。</li> <li>▼ 空調機の断続運転や外気導入量の制限をするなど省エネへの取り組みを実施し、さらなる環境配慮に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル品の購入や、ゴミのリサイクル化、冷暖房の節約などに努め、可能な限り環境に配慮するよう努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本指定期間における電気使用量などについて、積極的に使用方法を見直し、実際に削減を達成してきたことについて、高く評価したい。今後についても、利用者の利便性を意識しながら、地球温暖化対策及び環境配慮の推進に取り組んでいただきたい。</li> </ul>
<p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 統括管理責任者としてセンター長を配置した。組織体制は、総務・施設管理部門として施設課を、事業部門として事業課を置き、それぞれの責任者として課長を配置した。また財団本部を独立することで、法人のコンプライアンスやガバナンスをより徹底できる体制を確立した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団総務とセンター総務を分離した組織改変により、業務の迅速化と正確性の向上が可能となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館時間が長く、休日についても開館している生涯学習センターにおいて、適切に業務を遂行するためには、指揮命令系統等をいかに維持できるかが非常に重要である。引き続き、職員間の情報共有の在り方などについて積極的に見直しを図り、サービス向上に努めていただきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を定めた。</li> </ul>		

<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 係単位で定期的に会議を行い、様々な問題について協議するとともに、文書やメール等により職員間での情報を共有することで、市民サービスの維持向上に努めた。</li>   <li>▼ 人材育成のための研修を実施するとともに、外部研修等に参加した。(別紙参照)</li> </ul>	<p>・現状に必要な研修を精選し、適宜実施することができた。</p>	<p>・センターは、本市の生涯学習推進の中核施設であることから、センターの職員の専門性の向上は、本市の生涯学習の推進に必要不可欠である。生涯学習、社会教育等に関する研修に職員が積極的に参加できる職場環境づくりを、さらに進めていただきたい。また、社会教育主事講習等の専門研修については、長期的な視野を持ち、指定期間を通して受講計画を立てるなど、組織的な取組を進める必要がある。</p>
<p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ グループウェアの運用</li>   <li>▼ 会計・財務システムの運用</li>   <li>▼ 貸室受付システムの運用</li>   <li>▼ 事故対応要領に基づき、事故防止、事故発生時における、組織内の役割分担、緊急連絡体制などを整備し、迅速かつ適切な対応を心がけた。</li> </ul>	<p>・各システム等の適切な運用により、管理水準と利用者の利便性の向上に努めた。</p> <p>・職員全員が事故防止を心がけ、安全確保を図ることができた。</p>	<p>・引き続き、管理水準の維持向上に向けて、各システムの運用方法等について、適宜、見直しを進めていただきたい。また、事故対応要領等についても、施設環境等に合致しているのか、適宜、見直しを図り、安全確保の徹底に努めていただきたい。</p>
<p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p>		

▼ 貸室利用受付時においても暴力団員または関係事業者を相手方としないよう確認している。

・委託業務に係るマニュアルに基づき適正な管理をすることができた。  
 ・「札幌市暴力団の排除の推進に関する条例」「暴力団の排除にかかる照会事務マニュアル」を遵守し、委託業務等の適正な履行を確保することができた。

・適切に第三者に対する委託業務等の管理が行われている。  
 なお、第三者委託については、指定管理者の判断において行われるものであることから、委託している管理業務の実施状況等について、指定管理者が説明責任を負うことを念頭に置いて、業務の遂行及び再委託先への指導監督に取り組んでいただきたい。

▼ 警備・清掃・施設管理などの委託業務において、日報、月報、報告書により管理状況を確認するとともに、適宜打合せを行い、現状の把握と今後の対応などの情報交換を図り、迅速かつ適正な維持管理に努めた。

・故障、破損等の早期発見や、不審者への対応の協議など、日常的に情報の共有が図れることにより、適正に業務を監督することができた。

・再委託により、業務に携わる組織・団体が増えていくが、連絡系統が途切れることのないよう、再委託先に対して、定期的に報告を求めるなど、確認を徹底していただきたい。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整（運営協議会等の開催）

開催回	協議・報告内容
第1回 (8月2日)	委員7名参加 ・前年度事業報告、前回の運営協議会での意見交換について ・前年度利用者アンケート集計結果と回答について ・施設管理上で起きた不具合等の報告、Web仮予約状況報告、4-6月分の利用者の声の報告 ・事業のお知らせ、メディアプラザの開館時間の変更について
第2回 (12月15日)	委員7名参加 ・8-11月分の事業報告 ・指定管理選定の報告 ・メディアプラザの開館時間について（進捗報告） ・利用者の声の報告 ・前回の運営協議会での主な意見への対応状況について

・飲食スペースの活用方法や広報活動、施設利用に関する助言・提言など、多くの意見をいただくことができた。また、そうした意見を施設運営に取り入れることで、市民が生涯学習センターをより利用しやすくなるよう、施設の管理運営水準の向上につなげることができた。

・運営協議会を有意義なものとするためには、期間の偏りなく開催することはもとより、協議前提となる事業報告とその実施結果の分析が重要であるため、引き続き、日常的なセルフモニタリングを徹底して行っていただきたい。

第3回 (2月27日)	委員6名参加 ・12-1月分の事業報告 ・利用者の声の報告 ・前回の運営協議会での主な意見への対応状況について ・月貸ロッカーの導入について
<協議会メンバー>	
有識者:札幌国際大学教授 佐久間 章 地域:西のコンサ通り商店会会長 安田 敦司 利用者:さっぽろ市民カレッジ講師 井上 美豊子 利用者:さっぽろ市民カレッジ講師 原田 稔 行政:札幌市教育委員会生涯学習推進課長 大場 智裕 札幌市生涯学習センター総務課長 成田 正生 札幌市生涯学習センター事業課長 楠 幸恵	

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。
- ▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。
- ▼ 「経理面での不正防止対策について」及び「小口現金取扱要領」に基づき、現金残高、銀行口座、郵便振替口座の確認、領収書の作成及び保管、金券類、小口現金の管理を行い、適正な事務処理の徹底に努めた。

▽ 要望・苦情対応

- ▼ 要望・苦情に対しては、利用者ニーズとして記録し、速やかな対応を心がけた。また、毎月届いている要望等を職員で供覧し、情報の共有に努めた。

【要望】市の他の公共施設のように部屋の申し込みや予約を簡単にできるようにしてほしい。  
 【対応】インターネットで貸室申込の仮予約ができるように改善し、利用者の利益性向上を図った。

・所管部局による検査及び公認会計士による外部監査の結果、適正に管理しているとの評価を受けることができた。

・意見、要望、質問について迅速な回答と対応ができた。  
 ・施設に寄せられる意見の中には、回答先が不明なものもあるため、施設としての考え方や対応を利用者に伝えるために、ホームページ上に回答コーナーを設け、できるだけ多くの意見等に対応できるよう取組を進めた。

・仕様書等に基づき、適切に行われている。  
 なお、センターでは、複数の事務室において現金の管理を行っており、現金取扱いに携わる職員数も自ずと多くなることから、セルフモニタリング等により、現金の適正管理に向けた実効性のある取組を充実させていたきたい。

・施設に対する問い合わせについては、実際に問い合わせた方以外の利用者も、同様の意見や不明点を抱えている場合も想定されることから、左記のとおり、HPや施設内掲示等により対応を周知することは意義のある取組として評価できる。  
 この取組と併せて、引き続き、利用者の声に耳を傾け、サービスの向上に努めていたきたい。

	<p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>▼ 利用者アンケートや各事業の受講者アンケート等によるセルフモニタリングを実施した。利用者アンケート等での要望・意見については、所管局とも連携し適切に対応した。</p> <p>▼ 札幌市の業務財務検査に関しては、記録・帳簿等の適切な整備保管状況など概ね要求水準を達成したかなどについて、自己チェックを行なった。</p>	<p>・利用者アンケート等により、利用者の施設利用に関する要望・意見等を把握するとともに、苦情等の整理・分析を行い、その結果を運営協議会に報告した。こうした運営協議会での協議結果を踏まえ、利用者目線に立った迅速な対応を心がけた。施設の使いやすさについても、窓口に荷物置きを設置するなど、可能な限り利便性向上のための取り組みを進めた。</p>	<p>・窓口の荷物置き場の設置など、利用者の声が、施設の利便性の向上につながった一例であり、真摯に利用者の声を受け止める姿勢は非常に評価できる。</p> <p>・さっぽろ市民カレッジを始めとした多数のソフト事業に取り組むセンターでは、継続して事業の振り返りに取り組むことが、先の事業展開時における財産となる。セルフモニタリングが有意義なものとなるよう、さらに取組を進めていただきたい。</p> <p>・セルフモニタリングについては、財務経理・労務管理等の面においても、将来的な事故や不備を未然に防ぐ役割を果たしていることから、セルフモニタリングを形式的なものとならず、実効性あるものとなるよう取組を進めていただきたい。</p>
--	---	--	---

<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなどし、適正な労働環境の確保に努めている。また、法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。</li> <li>▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランス取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めた。</li> </ul>	<p>・社会保険労務士と相談しながら就業規則等の改定を行うとともに、ハラスメント防止研修、アンケート調査などを通して積極的に対応することができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・労働関係諸規則の整備や窓口の設置と併せて、職員への啓発の機会を設けるなど、これらの取組が実効性を持つようにしていただきたい。また、労働実態や諸規則が、法令に際して適切か、適宜見直しを図っていただきたい。</p> <p>・雇用環境の維持向上は業務効率を維持するためには必要不可欠であることから、組織的なマネジメントを進めていただきたい。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・労働関係諸規則の整備や窓口の設置と併せて、職員への啓発の機会を設けるなど、これらの取組が実効性を持つようにしていただきたい。また、労働実態や諸規則が、法令に際して適切か、適宜見直しを図っていただきたい。</p> <p>・雇用環境の維持向上は業務効率を維持するためには必要不可欠であることから、組織的なマネジメントを進めていただきたい。</p>			
A	B	C	D								
<p>・労働関係諸規則の整備や窓口の設置と併せて、職員への啓発の機会を設けるなど、これらの取組が実効性を持つようにしていただきたい。また、労働実態や諸規則が、法令に際して適切か、適宜見直しを図っていただきたい。</p> <p>・雇用環境の維持向上は業務効率を維持するためには必要不可欠であることから、組織的なマネジメントを進めていただきたい。</p>											
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 各関係法令に基づき、施設設備などを良好に維持した。長期的かつ安全な維持管理を行うため、故障や破損の早期発見、初期対応を速やかに行い、被害を最小限にとどめた。経年劣化により早期の改修が必要となっている施設構造部分などについては、所管局と連携し、計画的に対応していくよう努めた。</li> <li>▼ 事件・事故が発生した場合は、適確に状況を判断し、常に利用者の安全を優先するよう職員の意識を統一した。</li> <li>▼ 緊急連絡網により、有事の連絡体制を確保した。</li> <li>▼ 損害保険等、必要な保険に加入し、万一の事故に備えた。</li> </ul>	<p>躯体の不具合等については、早期発見と立入制限等来館者の安全確保のための初期対応を迅速に行った。経年劣化の激しい消防設備・警報機器等についても、所管局と連携し、計画的に更新・修繕に取り組んだ。貸室内の照明・空調や据付音響機器等の整備についても、利用者の安全・快適な利用を優先して取り組んだ。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>・センター開館から18年が経過しており、設備不良なども見られている。利用者の安全性と施設サービスの継続性を確保するためには、設備の故障や破損の早期発見と、速やかな初期対応が不可欠である。引き続き、施設内における細やかな目配りをお願いしたい。また、事故発生時に連絡が滞ることのないよう、連絡体制の確認を徹底していただきたい。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>・センター開館から18年が経過しており、設備不良なども見られている。利用者の安全性と施設サービスの継続性を確保するためには、設備の故障や破損の早期発見と、速やかな初期対応が不可欠である。引き続き、施設内における細やかな目配りをお願いしたい。また、事故発生時に連絡が滞ることのないよう、連絡体制の確認を徹底していただきたい。</p>			
A	B	C	D								
<p>・センター開館から18年が経過しており、設備不良なども見られている。利用者の安全性と施設サービスの継続性を確保するためには、設備の故障や破損の早期発見と、速やかな初期対応が不可欠である。引き続き、施設内における細やかな目配りをお願いしたい。また、事故発生時に連絡が滞ることのないよう、連絡体制の確認を徹底していただきたい。</p>											



<p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>▼ 清掃業務</p> <p>清掃員を配置し、開館前及び開館中に巡回清掃することで、常に清潔な施設を維持した。ワックス塗布などの定期清掃も計画的に実施した。</p> <p>▼ 警備業務</p> <p>警備業務実施要領に基づき、専門の警備員を配置し、防災防犯体制を整え、利用者の安全確保に努めた。</p> <p>▼ 施設維持管理業務</p> <p>施設及び設備の機能が長期にわたって、正常に保たれる点検・保守に努め、故障が発生した場合は、速やかに復旧するよう努めた。</p> <p>▼ 修繕</p> <p>施設維持管理業務委託業者と連携をとり、修繕箇所が発生した場合には可能な限り利用者に影響が出ないよう速やかに初期対応をとるよう努めた。</p>	<p>・貸室の稼働状況に合わせ、効率よく清掃業務を遂行することで、施設利用者に快適な利用環境を提供することができた。</p> <p>・周辺施設の利用を目的とした観光客の増に伴い、施設内の人の出入りがここ数年間、継続して増えてきている。施設の周辺環境の変化についても、警備員との情報共有を徹底することで、不審者対応などをスムーズに行うことができた。</p> <p>・開館から約18年が経過しており、施設の老朽化が顕在化してきていることから、利用者の安全確保の視点を欠かすことのないよう、定期的な打合せ等の委託業者との情報共有の体制を徹底的に維持し、長期的な視点に立った施設管理を行なうことができた。</p> <p>・委託業者との連携を密にし、利用者への影響と優先順位を常に意識しながら、修繕を実施することができた。</p>	<p>・施設の周辺環境の変化に伴い、センターにおける人の出入りは増加傾向にある。拾得物や不審者への対応など、施設管理担当職員の対応が増えている中でも、丁寧な対応を徹底して続けていることは、非常に評価できる。</p> <p>施設・設備等の維持管理については、再委託先との連絡調整が必須となることから、引き続き、日常的な情報共有が疎かになることのないよう、取組を進めていただきたい。</p> <p>・故障や不具合に関する報告については、図面や写真を添付するなど、より詳細な報告を求めたい。</p>
---	--	--

	<p>▼ 備品管理</p> <p>日頃から備品の点検・保守に努め、破損・故障等が発生した場合は速やかに復旧するよう努めた。</p> <p>▼ 駐車場管理</p> <p>「生涯学習センター駐車場管理運営業務仕様書」に基づき、駐車場管理業者と協議を行いながら、適切な運営を行った。</p> <p>▼ 外溝緑地管理</p> <p>再委託業者に対し、随時適切な指導監督、点検確認を行い、美観の保持、利用者の安全を確保し、快適な緑地環境に努めた。</p> <p>▽ 防災</p> <p>▼ 利用者の安全を確保するため、防災計画に基づき、災害などの緊急事態に備えた体制作りを行った。また、Jアラート発動時の対応等についても職員に周知をし、緊急事態を想定して備えることができた。</p> <p>▼ 生涯学習総合センター内の4施設合同の防災訓練を定期的実施し、災害時に備えた。平成29年7月、平成29年11月、平成30年2月に消防訓練を実施した。</p> <p>▼ 防火防災管理や自衛消防業務として、専門的な資格取得に努めた。</p>	<p>開館時から使用している備品類も多々あることから、利用時の事故等に繋がらないよう、徹底して日常の保守点検に取り組むことができた。</p> <p>・平成28年度の改修以降、利用を続けていく中で、案内表示が見え難くなるなどの状況が出てきたことから、所管部局等と連携し、表示の塗り直しなど、利用しやすい環境整備に取り組むことができた。</p> <p>・年間計画どおりに安全確保、美観の保持ができた。</p> <p>・防火防災に対する体制作りや訓練を実施するとともに、新たにJアラート発動時の対応についても備えることができた。</p>	<p>・防火や自衛消防に関する研修に積極的に参加するなど、職員の防災意識向上に積極的に取り組んでいる。</p> <p>センターは複合施設であることから、複合施設内4施設の防災意識の共有が重要である。引き続き、合同訓練や施設会議等を通して、防災意識の共有に取り組んでいきたい。</p>
--	---	---	---

(4)事業の計画・実施業務	▽ 生涯学習に関する学習機会の提供及び指導者等の人材育成に関する業務				
		A	B	C	D
	<p>①さっぽろ市民カレッジ</p> <p>▼ 年3期(平成29年4～8月、9～12月、平成30年1～3月)に分け、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系の3つの系で幅広い年齢層に対応して実施した。 【実績】 受講者5,223名(計画4,770名)298講座実施</p> <p>▼ 【センター企画講座】 学んだ成果を生かして社会参加につなげる「楽しく歌ってボランティア」「読み聞かせボランティアをはじめよう」などを実施した。</p> <p>まちづくりについて考えるきっかけとして、(一社)エゾシカ協会と連携し様々なアプローチでエゾシカとの共存について学ぶ「おいしいエゾシカ学」を、土木学会北海道支部と連携し水質保全事業の要となるダム工事現場を見学しながら現場で従事している専門家からの話を聞く「ロマンあふれる！巨大建造物」を実施した。</p> <p>ビジネスに役立つ情報の見方を学ぶ「新聞とネットから読む今」や、ビジネスシーンで好印象を与える服装などを学ぶ「できる男のスーツ着こなし術」といったビジネスパーソン向けの講座を、始業前の朝の時間帯に都心部のカフェで実施した。</p> <p>アートを科学の視点から見る「大人のための絵画鑑賞」や、音楽を数学の視点から見る「音楽のしくみ大解剖！」など分野横断的な講座や、ゆりかごコンサートと連動した子育て支援に関する講座「親子deあそぼ！」「親子deあそぼ！パパとあそぼ！」など、今日的な課題に対応した講座を実施するなどして、内容の充実を図った。</p> <p>民間企業と連携し、それぞれの企業の特性を生かした「森の学校」や「牛のお話とバター作り」「おいしいめんつゆの虎の巻！」を実施して、学習機会の提供を図るとともに、企業の社会貢献の支援を行った。</p> <p>▼ 【ちえりあ学習ボランティア企画講座】 講座やイベントの企画・運営を行う「ちえりあ学習ボランティア」がアート班、歴史班、社会・環境班、札幌学班、健康班の5つの班に分かれて、それぞれのテーマで16講座実施した。</p>	<p>・現地学習や実習を交えた講座を積極的に実施し、受講者の理解度と満足度を高めることができた。</p> <p>・開講時間や会場を工夫したことで、これまで受講が難しかったビジネスパーソンにも学習機会を提供することができ、新規受講者の獲得につなげることができた。</p> <p>・分野を横断した新しいスタイルの講座など企画の幅を広げたことで、時代の変化に対応した講座を実施することができた。</p> <p>・民間企業と連携し、それぞれの企業の特性を生かした講座を実施したことで、講座内容の充実を図った。</p>	<p>・さっぽろ市民カレッジについて、昨年に比べると実施講座数、受講者数ともに増っており、要求水準(120講座、3,000人)を上回っている。また、現地学習や実習を取り入れ、開講時間・会場の工夫を図る等、新たな受講者層の開拓に向けた取組は評価できる。</p> <p>・現代的・社会的な課題に対応した学習機会の提供に取り組むことは重要である。講座実施後の評価・検証のサイクルをより有意義なものとするよう努めていきたい。</p> <p>・民間企業を中心とし多様な機関と連携した講座を実施するなど、講座内容の充実を図ったことは評価できる。第3次札幌市生涯学習推進構想においても、関係機関と連携し、まちづくりや経済活動の担い手を育むことに重点を置いているため、今後も様々な主体との連携を強化・拡充しながら、市民が学んだ成果を更なる学びや活動につなげられるよう、取組の充実を期待したい。</p>		

<p>▼ 【ご近所先生企画講座】 「市民の学び合い」をコンセプトに、市民の学習成果の活用を図りながら、地域における新たな学習コミュニティづくりを進め、市内14ヶ所で、152講座実施した。</p> <p>▼ 【学社融合講座】 学校教育と社会教育が企画段階から連携(協働)し、市立札幌大通高校において、市民と生徒が共に学び合う講座を34講座実施した。講座を修了した生徒は、大通高校の卒業に必要な履修単位として認定された。</p>	<p>・ご近所先生企画講座受講者のサークル化を促し、受講者の更なる学びへつなげるよう支援した。</p> <p>・学社融合講座においては、高校生などへのアンケート結果を踏まえ、プログラム等を工夫したことにより、受講者数を大幅に増やすことができた。また、市民と高校生の学び合いによる世代間交流・異年齢学習を進め、お互いに学習意欲を高め合うなど良い成果があった。</p>	<p>・ご近所先生企画講座について、昨年度に比べると、区民センター等の地域会場での実施数が増加している。 地域の身近な施設における学習機会の充実は、市民に求められている取組であることから、今後も、様々な生涯学習関連施設等との連携を通して、この取組を充実させていくことを期待したい。</p> <p>・実施結果の評価と検証が次の事業実施に生きた良い事例である。こういったサイクルが、さらに充実されていくことを期待したい。</p>
--	--	--

## ②学習支援者活用推進事業

- ▼ さっぽろ市民カレッジ受講修了者が講師となる講座を設けるなど、様々な形で学んだ成果の活用を促進した。

## ア 市民講師育成(ご近所先生)

ご近所先生企画講座を開こうとする市民を対象に、講師としての資質向上やスキルアップを図るため、研修会と交流会を内容の充実を図りながら実施した。また、地域での活動を支援するため、「ちえりあ市民講師バンク」への登録を促し、各種事業での活動の場を紹介した。  
【実績】研修会4回129名 交流会1回37名

## イ メディアボランティア・オンデマンド

視聴覚教育に精通する教員OBで構成されるメディアボランティア「オンデマンド」に、16ミリフィルム及び映写機の使用方法を一般市民に伝える講習会の場を提供するなどして、活動を支援した。

【実績】「オンデマンド」登録者数4名  
7/30(日)16ミリフィルム上映体験講習会 受講者数親子5組10名  
11/26(日)16ミリフィルム上映体験講習会 受講者3名

## ウ 市民ファシリテーター

市民ファシリテーター養成講座修了者に実践活動に必要な知識やノウハウを学ぶ機会を提供し、同講座の補助講師を務めてもらった。  
【実績】登録者3名

・教え合う学び合う社会の充実に向け、平成29年度は、さっぽろ市民カレッジの中でも、ご近所先生企画講座に重点を置いて取り組んだ。その結果、市民カレッジの中で講師を務めるに留まらず、他の社会教育施設等での活動に繋がるなど、地域で活躍する講師の増加につながった。

・市民一人ひとりの知識や経験を生かす「学びと実践のサイクル」が進み、学びを通じた市民の社会参加を促す場を提供した。

・学習支援者が積極的に講座の計画や振り返りについての話し合いに取り組み、講師・担当者それぞれの意見を講座へ反映することができた。  
・講座内ではグループ内の補助や、講師へのこまめな状況報告など丁寧な学習支援活動を行うことができ、受講者からは理解が進んだという声が寄せられた。  
・講座の企画から運営まで関わることにより、学習支援者自身の学びを深めることができた。

・生涯学習の更なる普及振興を図るためには、センターが育成したボランティアや市民講師などの人材と、市民の学習ニーズを結びつける取組の充実が不可欠である。人材登録・紹介制度である「ちえりあ市民講師バンク」について、ご近所先生との連携強化を図るだけでなく、登録講師の紹介方法(PR方法)が市民にとって利用しやすい形態なのかなど、利用者目線に立った事業運営が必要であると考え。

## エ ちえりあビデオクルー

映像メディア講座受講生で結成されたグループに、センター事業、地域の活動・行事、自然風景などのビデオ撮影・編集を依頼し、センターのホームページで作品を発信した。また、映像メディア講座の講師を務めてもらった。

【実績】登録者18名

・センター事業や福祉施設慰問コンサート等の記録撮影を依頼し、クルーに活躍の場を提供するだけでなく、事業PR用の動画作成などの取り組みを進めることにより、学習成果の発表と、その成果の活用という2つの事業目的を達成することができた。

## オ コーラスボランティア

「楽しく歌ってボランティア」講座修了者で結成されたグループに同講座の運営補助を務めてもらった。また、施設慰問コンサートを実施した。

【実績】登録者「コスモス」13名、

「プリティボイス」19名、計32名

・学んだ成果を生かし講座の中で運営補助を努めてもらうなど、活躍する場を提供することができた。

## カ カメラボランティア

写真の撮影技術や知識を学ぶ講座の修了生がつくるボランティアサークルに対して撮影の場を提供するとともに、広報誌等に活用させてもらうなどした。

【実績】登録者「ハピネス」3名

「you快」5名

「トトレレ」9名 計17名

・講座カリキュラムの工夫や仲間づくりの雰囲気づくりを行なった結果、新しいサークルが誕生した。この一例を参考にしながら、学びによるコミュニティづくりを進めたい。

## ③生涯学習関連施設職員研修事業

- ▼ 区民センター、地区センターなど生涯学習活動支援に関連する施設職員の資質向上を図るため、事業の企画立案や広報などに必要な知識やノウハウを身につける研修を実施した。(2月6日、7日)

【実績】18施設35名

・受講者アンケート結果からも好評であり、日常業務に役立つ実践的な内容の研修を提供することができた。

・市民の多様な学習ニーズに応えるためには、区民センターなどの生涯学習関連施設職員の資質向上は必要不可欠である。この取組は、生涯学習の中核施設であるセンターに求められているものであることから、引き続き、その内容の充実に努めていただきたい。また、生涯学習関連施設同士のネットワークの構築に資する取組となることも期待したい。

## ④生涯学習ボランティア育成事業

- ▼ さっぽろ市民カレッジ講座の企画・運営に当たる「ちえりあ学習ボランティア」と、視聴覚教育にかかわるグループ「オンデマンド」に、活動の場と機会を提供し、ボランティアとしての資質や能力の向上を図った。

【実績】「ちえりあ学習ボランティア」登録者47名  
「オンデマンド」登録者7名

・ボランティア内での新規サークルが3つ増え、班や委員会を超えたメンバーでのコミュニケーションを図ることができた。  
・ちえりあフェスティバルでは、さまざまな講師のつながりを生かした講座を企画することができた。  
・育成した人材を活用することで、市民に学習成果を発揮する機会を提供することができた。

・学習成果を発揮する機会や場所を創り出すことは、生涯学習の普及振興に資する重要な取組として評価できる。

## ⑤インターンシップの受入れ

- ▼ 職場体験の実習生を受け入れ、市民カレッジの企画、立案、運営などを体験する場を提供した。

手稲東中学校 5名、北海学園大学 10名、北海道大学 2名、北翔大学 1名、  
稲積中学校 5名、英藍高等学校 5名、北海道教育大学附属中学校 5名

・高等教育機関等と連携し、学生の就業観や就労意欲を高めることができた。  
・学生への指導を通して担当職員のスキル向上につなげることができた。

・左記の効果のほかにも、将来の生涯学習の担い手づくりにもつながる可能性のある取組である。引き続き、受入依頼に対応できるよう体制の整備に努めていきたい。

## ▽ 生涯学習に関する調査、研究、企画立案及び啓発に関すること。

- ▼ 28年度の調査研究事業で提案した「札幌市内の生涯学習関連施設等で行われる講座等の情報を紹介する市民向けのウェブサイト」(札幌サイト)について、それが効果的に活用されるためにどのようなコンテンツが必要であるかを調査・研究した。

・第3次札幌市生涯学習推進構想の施策としても掲げられている「情報提供体制の充実」に向け、紙媒体に馴染みの深い利用者層にとっても利用しやすい、という視点を持ったICTを用いた生涯学習情報の提供方法の具体例を提案することができた。

・既存の紙媒体による方法だけでなく、ICTを活用した生涯学習情報の収集発信に着目したことは、時代に適したものとして評価できる。  
なお、調査研究事業については、調査研究結果を、実際にセンターの事業に生かしていくことが重要であることから、その点を意識したテーマ選択と、調査結果がセンター内で十分に共有が図られる仕組みの整備を期待したい。

## ▽ 生涯学習に関する情報の収集及び提供並びに相談に関すること。

## ①メディアプラザ運営業務

## ▼ ア メディアプラザ運営事業

広く学習相談に応じるとともに、生涯学習に関する資料の収集と貸出や資料紹介などのレファレンスサービスを通じて、学習活動の支援を行った。

【実績】来場者数224,371名(前年度 208,855名)

## (a) 図書閲覧・貸出

H28年10月より札幌市図書館と電算システムを統合し、図書やCDの相互貸出サービスを行えるようになった。H29年度は、一年を通してそのサービスを提供した最初の年だったが、入場者数及び貸出冊数の伸びは顕著であった。また、新たに札幌市えほん図書館と協力し、「さっぽろ絵本グランプリ」の展示事業を実施した。

【実績】図書・CD貸出数76,565冊

## (b) 音楽・語学教材・映像の視聴

クラシックを中心とした音楽教材などを収蔵する図書館として、音楽・映像・語学教材(保有数28,931点)を館内での視聴に供した。

また、CD(保有数約1万2千点)の館外貸出を実施した。過去に実施した特集やコンサートの資料を展示するコーナーを設けるなどし、貸出数の増加につなげた。

【実績】利用件数

<館内貸出> 音楽教材1,399件(前年度1,160件)

映像教材3,906件(前年度 4,184件)

語学4件(前年度 3件)

<館外貸出> 【再掲】図書・CD貸出数76,565冊

・新しいシステムによる図書業務の基礎を固め、軌道に乗せることができた。

・メディアプラザへの入場者数は、前年度比7%増と堅調に推移している。  
・図書及びCDの貸出も増えており、特にCDは、多数のユニークタイトル(=全館で当センターにしかない資料)が市内で活発に利用されている。

・札幌市えほん図書館と連携し、メディアプラザの蔵書にない「えほん」を展示閲覧するなど、親子連れの来館者を中心に新たな事業を実施することができた。

・資料を単に閲覧できるように配架するだけでなく、特集を組み展示方法を工夫することで貸出数が増えるなど、幅広い層の利用者から好評を得ることができた。

・日常的な展示方法の工夫だけでなく、札幌市えほん図書館との連携による特集展示など、新たな利用者層の開拓に積極的に取り組んでいると評価できる。



<p>(c) Chie Terrace事業 旧レストラスペースを「ブックカフェスタイル」に改修し、「Chie Terrace(ちえテラス)」としてオープンして1年が経過した。ちえテラスでは、図書などの特集展示、絵本の読み聞かせ、映画会、CDコンサートなどのイベントを実施した。 【実績】おはなし会(絵本の読み聞かせ) 12回参加者411名 映画会 18回参加者185名 CDコンサート 18回参加者78名</p>	<p>・生涯学習に関連する事業をより一層普及啓発できる「場所＝場」として活用し、多くの市民から好評を得た。また、センター事業のPRを行ったことにより、特にメディアプラザでの来場者数の増加につながっている。 ・絵本の読み聞かせ事業については、親子連れを中心とした新しい利用者層を呼び込むことに成功している。幅広い利用者層に対し、生涯学習に取り組むきっかけを提供することができるよう、取組を進めていきたい。</p>	<p>・交流スペースにおける絵本の読み聞かせ事業など、新しい利用者層の開拓に資する取組として評価できる。 この取組が、生涯学習の普及振興にどれだけの効果を持つのか、併せて評価検証に取り組むことが重要である。</p>
<p>ア 学習相談、サークル・講師の紹介 メディアプラザでの学習相談を始め、生涯学習に関する相談に幅広く対応するとともに、「ちえりあ市民講師バンク」に登録している講師やサークル活動の内容を紹介するなど、市民の学習活動に役立つ情報を提供した。 あわせて、「ちえりあサークル」に登録している団体の情報をまとめた「サークルガイド」を配布した。 【実績】メディアプラザ学習相談2,839件 ちえりあ市民講師バンク登録者数191名 サークル登録168件</p>	<p>・市民の多様な学習ニーズに応え、サークル紹介や学習相談に応じるとともに、生涯学習に関する資料の収集と発信のサービスを通じて、積極的な学習支援を行った。 ・「ちえりあ市民講師バンク」の利用実績には伸びしろがあると思われることから、都心でのPR活動などを通じて実績増につなげたい。</p>	<p>・依然として、学習相談については、十分に機能しているとは言い難い。「ちえりあ市民講師バンク」について、現在の利用者層の分析を通して、効果的なPRに取り組んでいくだけでなく、講師情報の発信方法の見直しなど、学習者にとって利用しやすいことを第一に考えて、運営に取り組んでいただきたい。</p>
<p>【実績】センター全体での学習相談件数12,389件 (1) 講座内容等の問い合わせ:313 (2) 施設の紹介:882 (3) 講師の紹介・登録:68 (4) サークルの紹介:111 (5) レファレンス(図書・視聴覚):971 (6) その他(他施設の案内など):485 (7) メディアプラザ以外での学習相談:9,559</p>		

## ②生涯学習情報誌の発行

- ▼ 生涯学習関連施設の情報と講座等の情報を掲載した「大人の学び場MAP」を、8月および2月の2回、各回6,000部ずつ発行した。今年度からA6版のポケットブックサイズとし、斬新なデザインの表紙とするなど、手に取りやすさを重視した。また、地下歩行空間で配布会も行い、普段生涯学習関連施設を訪れない市民にも冊子を手に取ってもらう機会を設けた。  
【実績】2回発行(8月、2月)各6,000部

・官民間わず、広く市内の生涯学習施設の情報を掲載した冊子を、年2回各6,000部(平成28年度の2倍)発行することができた。  
・新たに地下歩行空間で配布会を開き、普段生涯学習施設を訪れない市民にも冊子を手にとってもらった。同配布会では冊子に掲載した各施設の講座等のチラシ類も配布し、市内全体の生涯学習の普及啓発を図った。

・より多くの市民の手に届くよう、多様な工夫を行っている点は評価できる。  
・この取組は、センターの情報だけでなく、市内他施設の生涯学習情報を発信する重要な取組である。引き続き、利用者目線を意識した創意工夫を通して、生涯学習の普及啓発に取り組んでいただきたい。

## ③子どもの学びガイドの発行

- ▼ 学校休業日に市内公共施設で開かれる子ども向け事業を紹介する案内チラシを、年4回発行し、市立小学校の全児童に配布した。  
【実績】4回発行(6月、7月、11月、12月)各93,000部

・情報収集及び提供を積極的に行い、学校休業日における児童の自主的な学びを支援することができた。

## ④ホームページの活用

- ▼ 講座やイベントなどの情報提供のほか、ちえりあビデオクルーが撮影した動画を配信するなどして、センターの事業を紹介した。また、今年度から利用者からの質問や意見に対する回答を公開した。  
【実績】ホームページアクセス数1,039,230件  
メールマガジン配信12回  
メールマガジン登録者2,896名

・「見やすさ」「使いやすさ」「探しやすさ」の向上、「便利で役立つ」情報提供を図ることができた。また、業者に委託しなくても職員が直接ホームページの更新及び管理ができるようになったことで、常に最新の情報提供を行うことができた。

## ⑤生涯学習センター広報誌の発行

- ▼ 生涯学習センター主催事業や講座及び施設の  
情報などを提供する広報誌「ら・ちえりあつて」を  
発行し、公共施設などに配布した。  
【実績】6回発行  
(5月、7月、9月、11月、1月、3月)  
各回12,000部

・多くの市民に広報誌を通じて、さっぽろ市民カレッジをはじめとするセンター事業を周知することができた。  
・施設におけるアンケートの結果から、多くの市民がセンター広報誌から情報を得ていることが明らかになっている。そのため、引き続き、見やすさと学ぶ意欲の喚起の両面を意識した紙面づくりを進めていきたい。

・見やすく内容も充実している。今後も市民目線で、内容の伝わりやすさを意識するとともに、学習意欲の喚起につながる広報誌づくりに取り組んでいただきたい。

## ▽ 生涯学習に関する事業を行う団体との連携及び交流の支援に関すること。

## ①連携講座の実施

- ▼ さっぽろ市民カレッジにおいて、社会のニーズに応じた専門的かつ高度な知識経験を有する機関と連携した。  
【実績】(一社)エゾシカ協会(1講座実施)  
(公社)土木学会北海道支部(1講座実施)  
札幌市立大学(3講座実施)  
北海学園大学(1講座実施)  
北海道教育大学(4講座実施)ほか

・センターが持つ事業の企画運営のノウハウを生かし、関係機関と連絡して市民に専門性の高い講座を提供することができた。

・関連団体の持つ専門性を講座としてまとめ上げるセンターのノウハウを高く評価したい。市の関係部局との連携も視野に入れながら、取組の充実を図っていただきたい。

## ②市立札幌大通高校との学者融合講座の実施

- ▼ さっぽろ市民カレッジの一部講座を校舎内で実施し、市民と高校生が共に学ぶ新たな学びの場を創出した。
- ▼ ご近所先生企画講座で育成した人材を積極的に活用した。  
【実績】開講数20講座

・学社融合講座では、現地学習や実習等を通して、高校生と一般市民の学びの交流を一層深めることができた。

## ③各区との連携事業の実施

- ▼ センターのノウハウやネットワークを生かし、区役所等と連携してまちづくりの推進に寄与する事業を実施した。

## ア 西区より以下の業務を受託し、実施した。

- ・西区役所から委託され、高齢者対象の「西区ときわ大学」を全15回のカリキュラムで実施した。ご近所先生を講師として活用するなど、市民による学び合いを推進した。  
【実績】15回50名

・行政と連携し、センターの持つネットワークやスキルを生かした講座を通じて、まちづくり活動に参加するきっかけづくりをはじめとした多様な学習機会を提供した。

・センターの持つ講座企画のノウハウや、育成した人材が、市の他事業においても活用されていることは高く評価したい。

## イ 東区より以下の業務を受託し、実施した。

- ・東区役所から委託され、高齢者対象の「東区年輪大学」を全16回のカリキュラムで実施した。ご近所先生を講師として活用するなど、市民による学び合いを推進した。  
【実績】16回39名

・卒業後に同期会が発足するなど、学びによるコミュニティの醸成に成功し、高齢者の社会参画の機会にも繋げることができた。

④民間企業との連携講座の実施

- ▼ アサヒビール(株)北海道工場、雪印メグミルク(株)北海道統括支店、東洋水産(株)、石屋商事(株)と連携し、それぞれの企業の特性を生かした講座を実施し、企業の社会貢献活動に協力した。  
【実績】7回103名

・民間企業と連携した講座を実施することで、講座の内容の充実を図ることができた。また企業の社会貢献を支援することができた。

企業の持つ専門性を講座としてまとめ上げるセンターの講座企画のノウハウを評価したい。企業の社会貢献の場として、学習機会を設けることは、生涯学習に対する社会的理解を深めるためには重要であることから、これらの取組がさらに充実されていくことを期待したい。

▽生涯学習に関する市民の自主活動及び交流の支援業務

①ちえりあフェスティバル

- ▼ ちえりあの開館(平成12年8月)を記念して、館内の4施設(生涯学習センター、宮の沢若者活動センター、教育センター、リサイクルプラザ宮の沢)が共同で、生涯学習活動に気軽に触れることができる多数のイベントを行い、幅広い年代層の市民に対して生涯学習の普及啓発を図った。

・ちえりあ学習ボランティアが主体的に参画するなど、市民の日ごろの学習成果の発表の場を設けることができた。また、複合4施設だけでなく、多数の生涯学習関連団体の交流の場としても機能させることができた。

・生涯学習の普及啓発に資する取組となっただけでなく、ボランティアの活躍の場、学習成果の発表の場、生涯学習関連施設や団体の交流の場であったりと多様な役割を果たす取組となっている。引き続き、市民やボランティアなどの力を取り入れながら、市民ぐるみの取組となることを期待したい。

- ▼ サークル活動、講座の体験や視聴覚教材を活用したコーナーなど、センターが有する事業のノウハウや所有する教材を活用したイベントを多数実施し、好評を得た。また、タイトルロゴデザインを公募するなど、市民参加型の要素も取り入れながら事業を展開した。

【実績】17,989名(2日間)

<p>②サークル発表会</p> <p>▼ ちえりあや市内各施設を拠点に活動している団体に学習成果を披露する場を提供することにより、活動意欲の向上及び活動の活性化を図るとともに、市民のサークル活動への興味・関心を高めることができた。</p> <p>【実績】  (展示部門) 参加19団体(7日間)  (舞台部門) 参加61団体、  観覧者1,648名(3日間)</p>	<p>・学習成果の発表の場として、サークル参加者の活動意欲の向上を図るとともに、市民への鑑賞の場を設けることで、サークル活動や学習活動に対する興味・関心を高め、生涯学習に携わるきっかけづくりにも繋げることができた。</p> <p>・サークル活動の活性化に伴って、貸室事業にも好影響が出ている。</p>	<p>・学習成果の発表を通じて、学ぶ意欲の向上やサークル活動の活性化につながるとともに、市民が新しい学習活動へ興味・関心を高める場所として機能している。</p> <p>引き続き、学びを通じた交流の場として、より多くの市民が参加できる事業の展開を期待したい。</p>
<p>③アートウォール作品展示</p> <p>▼ ロビーの壁面を活用し、市民から募集したアート作品の展示を行うことで、芸術活動に取り組む市民に発表の場を提供するとともに、来館者にアート作品鑑賞の機会を提供した。</p> <p>【実績】10作品展示</p>	<p>・学習成果の発表の場を設けることで、出展者の多くから、制作活動や作品発表の意欲が増したとの意見をいただいており、市民の学習支援につなげることができた。</p>	
<p>▽ 学習成果の発表及び鑑賞の支援に関すること。</p>		
<p>①ちえりあフェスティバル(再掲)</p> <p>▼ ちえりあの開館(平成12年8月)を記念して、館内の4施設(生涯学習センター、宮の沢若者活動センター、教育センター、リサイクルプラザ宮の沢)が共同で、生涯学習活動に気軽に触れることができる多数のイベントを行い、幅広い年代層の市民に対して生涯学習の普及啓発を図った。</p> <p>サークル活動、講座の体験や視聴覚教材を活用したコーナーなど、センターが有する事業のノウハウや所有する教材を活用したイベントを多数実施し、好評を得た。また、タイトルロゴデザインを公募するなど、市民参加型の要素も取り入れながら事業を展開した。</p> <p>【実績】17,989名(2日間)</p>	<p>・ちえりあ学習ボランティアが主体的に参画するなど、市民の日ごろの学習成果の発表の場を設けることができた。</p>	<p>・学習成果の発表の機会を設けることは、生涯学習事業を行う上で重要な取組であることから、今後も市民の学んだ成果を発表し、共有できる場所として、事業が展開されていくことを期待する。</p>

<p>②サークル発表会(再掲)</p> <p>▼ ちえりあや市内各施設を拠点に活動している団体が学習成果を披露する場を提供することにより、活動意欲の向上及び活動の活性化を図るとともに、市民のサークル活動への興味・関心を高めることができた。 【実績】 (展示部門) 参加19団体(7日間) (舞台部門) 参加61団体、 観覧者1,648名(3日間)</p> <p>③幼稚園児のお絵かき展</p> <p>▼ 一般社団法人札幌市私立幼稚園連合会の協力のもと、幼稚園児の活動発表の場としてロビーで作品展を開催した。期間中は園児やその家族が来館し、楽しそうに展示作品を眺めるなど館内に明るい賑わいが創出された。 【実績】参加 12園1,676作品</p> <p>④ちえりあロビーコンサート</p> <p>▼ 市内や近郊で音楽活動に取り組んでいる個人、団体から出演者を公募し、音楽活動の発表の場を提供するとともに、市民に演奏を気軽に聴いてもらう機会を提供した。 【実績】参加12団体 観覧者1,274名</p>	<p>・サークル参加者の活動意欲の向上を図るとともに、市民への鑑賞の場を設け、サークル活動や学習活動に対する興味・関心を高めることができた。 ・サークル活動の活性化に伴って、貸室事業にも好影響が出ている。</p> <p>・期間中は普段来館することが少ない園児やその家族が来館し、楽しそうに展示作品を眺めるなど、館内に明るい賑わいを創出することができた。</p> <p>・毎回100名ほどの来場者があり、市民への音楽鑑賞の場を定着させることができた。 ・コンサート終了後、ちえりあ内の施設を利用する市民がいるなど、センター事業のPRにもつなげることができた。</p>	
<p>▽生涯学習センターの施設の使用に供すること。</p>		
<p>①貸室事業</p> <p>▼ 市民の学習活動の場として、ちえりあホール及び各種研修室を提供した(有料)。申込時の利用者の利便性を高めるため、インターネットで仮予約ができるようWeb仮予約システムを導入した。</p>	<p>・Web仮予約システムを導入したことにより、申込手続きの簡素化ができ、受付を円滑にすることができた。</p>	<p>・手続きの簡素化など、利用者の利便性に資する取組として評価できる。 また、貸室の目標利用率を達成したことについても評価したい。</p>
<p>②施設の有効活用</p> <p>▼ ロビー及びギャラリーを市民の学習成果の発表の場として提供した。</p>	<p>・立体的な作品も展示できることから、毎年使用する団体や、年に複数回使用する団体もおり、好評を得ている。施設内の賑わいのづくりに繋がっている。</p>	<p>HPを利用した申込において、利用者にとって利用しやすい掲載内容になっているかなどの利用者目線の見直しを、引き続き期待したい。</p>

<p>▽ その他生涯学習センターの設置目的を達成するために必要な事業。</p> <p>①ちえりあ学生寄席</p> <p>▼ 「ちえりあ寄席」の舞台を活用し、北海道大学落語研究会が企画・出演・運営する「ちえりあ学生寄席」を「ちえりあ寄席」の前夜祭として無料で実施した。(9月27日) 【実績】255名</p> <p>②落語学校観賞会</p> <p>▼ 公益社団法人落語芸術協会と連携し、日本の伝統芸能である落語の楽しさや奥深さに触れてもらうため、中央区、西区、手稲区の小学校9校を無料招待し、鑑賞会を実施した。(9月28日～29日)9校:二十四軒小、稲積小、前田中央小、新陵小、円山小、福井野小、発寒小、琴似小、新陵東小(4公演1,049名)</p> <p>③カルチャーナイト</p> <p>▼ 夜間、公共施設などを開放し、文化活動の発信を通じて、市民の地域文化への関心を高めるとともに、新しい地域文化の創造と発展を図る「カルチャーナイト」に参画し、「おりがみ体験」やオペラシアター「愛の妙薬」を開催した。(7月21日) 【実績】149名</p> <p>④ちえりあオペラシアター</p> <p>▼ 生涯学習センター所蔵のDVDを活用し、上映と専門家の解説を組み合わせた講座を実施し、世界一流のオペラを鑑賞するとともに、オペラに関する幅広い知識を学ぶ機会を提供した。 【実績】6回749名</p>	<p>・落語などの芸術文化を学ぶ学生に成果を発表する機会を提供するとともに、市民が気軽に落語に触れる場を提供することができた。</p> <p>・解説と合わせた体験プログラムにより、子ども達に落語の楽しさと表現力の多様さを伝えることを通して、日本の伝統芸能に親しむきっかけを提供することができた。</p> <p>・対象者別にホールとロビーを使い事業を開催することにより、他のイベントに来ていた来場者の参加を促すことができた。</p> <p>・毎回100名強の受講者があり、うちリピーターの参加者も多く、オペラの普及振興に役立っている事業である。オペラの世界観の解説等を通して、幅広く、学ぶことへの興味関心を引き出すことができた。</p> <p>・講座当日に、次回の申し込みを会場で受付けることで、安定的なりピーターの確保ができた。</p>	<p>生涯学習に馴染みのない層にも関心を持ってもらえるよう、音楽や芸術といった内容を中心に、多様な取組が行われている。映画会やオペラシアターなどは、施設機能のPRの機会ともなっている。引き続き、幅広い世代が生涯学習に関心を持つきっかけづくりに努めていただきたい。</p>
--	--	---

## ⑤ちえりあ映像フェスタ

- ▼ 北海道や札幌をテーマに市民から公募した映像作品の上映会にあわせて、コーディネーター（北海道教育大学教授/伊藤隆介氏）による講評を行い、地域の魅力について考えるきっかけとした。  
【実績】応募13作品、来場者114名  
※過去の応募作品はメディアプラザにDVDとしてアーカイブされており、来館者がいつでも視聴することができる体制が整っている。

・専門家による講評、来場者の感想のフィードバック、制作者の交流会といったフォロー体制により、応募者の制作意欲をかき立て、リピーターの参加につながっている。しかし、新規の応募は頭打ちとなっている。

## ⑥ちえりあ映画会

- ▼ 映画に親しむ機会を提供するため、生涯学習センター等が所蔵する多様な映像教材をちえりあホールで上映した。邦画では、ボランティア団体の「ムービー北海道」の協力を得て、目の不自由な人も鑑賞できるよう副音声ガイドサービスを実施した。  
また学校の長期休業期間には、親子で楽しめる作品を上映した。  
このほか、Chie Terrace(ちえテラス)に接続するホールホワイエ等を活用して、親子向けの「キッズシネマ」及び一般向けの「夕暮れシネマ」上映会を実施した。  
【実績】30回4,163名(前年度 21回3,588名)  
大人向け 19回「蝉しぐれ」ほか  
子ども向け 11回「トムとジェリー/ウッドペッカー」ほか

・センターが所有する資料を市民に広く紹介するとともに、ホール機能を有効に活用できた。  
・開催回数を増やすことにより、来場者数を昨年比で16%増加させることができた。センターを利用する人の数や機会を増やすことにより、他の事業に触れる機会にも繋げることができた。  
・映画鑑賞による生涯学習意欲の喚起に加え、各作品の上映前に教育的要素のある視聴覚教材を上映し、市民への様々な情報発信を行った。



## ⑦ちえりあCDコンサート

- ▼ 生涯学習センター所蔵の音響機器と視聴覚資料を活用し、良質な音響環境で名演奏に親しむ場を提供するとともに、メディアプラザの貸出しCDの利用促進を図った。また、Chie Terrace (ちえテラス)に接続するホールホワイエ等を活用して、ミニCDコンサートを開催し、音楽鑑賞の機会を増やした。  
【実績】30回436名(前年度 22回463名)  
「ムーンライト・セレナーデ/グレン・ミラーのすべて」、「ニューイヤークンサート1987」ほか

・分かりやすいなかにも専門性を持たせた配布資料を作成した他、クラシック以外のジャンル(ジャズや歌舞伎の鳴り物など)を取り上げたことにより、新たな参加者を呼び込むことができた。  
・これまで実施したCDコンサートを紹介する特集棚をメディアプラザ内に設けており、この特集棚のCDが頻繁に貸し出しされていて利用増につながっている。また、関連するCDや図書も紹介することにより、メディアプラザでのCDや図書の貸出し数増加につながった。

## ⑧ゆりかごコンサート

- ▼ 子育て中の親とその子どもに気軽に音楽を楽しんでもらえるよう、乳幼児の声や動きを気にせず鑑賞できるコンサートを開催した。  
【実績】2公演417組834名  
12月5日 出演: アルコ弦楽四重団 参加240組480名  
2月16日 出演: 和楽座 参加177組354名

・リピータが多く、アンケートの満足度も高いことから、乳幼児連れの親たちが気兼ねなく参加し、親子で音楽に楽しむことができる場を提供するための事業として定着してきている。

## ⑨ちえりあ講演会

- ▼ 生涯学習活動の普及啓発を図るとともに、さっぽろ市民カレッジをはじめとする事業のPRを図るため、市民が興味関心を持つテーマによる講演会を開催した。(8月27日)  
【実績】元氣シニアの集い 講師:ノンフィクション作家 佐藤 早苗 入場者数202名

・親子向けのイベントが多いちえりあフェスティバルの中で、大人も楽しめる催し物となった。  
・講演会の内容が新聞で紹介されるなど、社会的課題である認知症について市民の高い関心と理解を得ることができた。

	<p>⑩北海道吹奏楽フェスティバル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 若手プロ奏者たちによる演奏会に合わせて、小・中学校・高校・大学の吹奏楽部に公開レッスンを行うレクチャーコンサートを開催して、吹奏楽活動を支援し、その普及を図った。(1月22日、1月29日) 【実績】2公演977名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加団体が、小学校、中学校、高校、大学にまで広がり、新たな交流が図られた。</li> <li>・世代を超えた学び合いにより、サポートした団体がコンクール上位に入賞するなど成果が出ており、地域での活動の場が広がることにもつながった。</li> </ul>									
<p>(5)施設利用に関する業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▽ 利用件数等 別添のとおり</li> <li>▽ 不承認 0件、 取消し 95件、 減免 1,928件、 還付 178件</li> <li>▽ 利用促進の取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 丁寧な対応で、できる限り利用者のニーズに沿うよう貸室提案をした。</li> <li>▼ Web仮予約システムを導入し、申込手続きの簡素化を図った。</li> <li>▼ 前年度に引き続き貸室利用率が80%を超えた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Web仮予約システムを導入したことにより、申込手続きの簡素化ができ、受付を円滑にすることができた。</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センターでは、本指定期間における貸室利用率の目標値を79.9%と設定していた。指定期間の最終年度である平成29年度については、利用率は82.4%であり、指定期間における目標値を達成した。</li> <li>センターでは、これまで丁寧な対応のほか、各種割引の実施など、サービス向上に取り組んできたところではあるが、引き続き、市民ニーズに即した取組を期待したい。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターでは、本指定期間における貸室利用率の目標値を79.9%と設定していた。指定期間の最終年度である平成29年度については、利用率は82.4%であり、指定期間における目標値を達成した。</li> <li>センターでは、これまで丁寧な対応のほか、各種割引の実施など、サービス向上に取り組んできたところではあるが、引き続き、市民ニーズに即した取組を期待したい。</li> </ul>			
A	B	C	D								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・センターでは、本指定期間における貸室利用率の目標値を79.9%と設定していた。指定期間の最終年度である平成29年度については、利用率は82.4%であり、指定期間における目標値を達成した。</li> <li>センターでは、これまで丁寧な対応のほか、各種割引の実施など、サービス向上に取り組んできたところではあるが、引き続き、市民ニーズに即した取組を期待したい。</li> </ul>											

(6)付随業務	▽ 広報業務		A B C D
	<p>▼ 広報誌の発行(再掲) 生涯学習センター主催事業や講座及び施設の情報などを提供する広報誌「ら・ちえりあって」を発行し、公共施設などに配布した。 【実績】6回発行 (5月、7月、9月、11月、1月、3月) 各回12,000部</p> <p>▼ ホームページの活用 講座やイベントなどの情報提供のほか、ちえりあビデオクルーが撮影した動画を配信するなどして、センターの事業を紹介した。 また、今年度から利用者からの質問や意見に対する回答を公開した。</p> <p>【実績】ホームページアクセス数1,039,230件 メールマガジン配信12回 メールマガジン登録者2,896名</p> <p>▽ 引継ぎ業務</p> <p>▼ 各事業の資料(起案、報告書)等を必要年数保管し、後続の担当者が円滑に業務を引き継げるようにした。</p>	<p>・施設におけるアンケートの結果から、多くの市民がセンター広報誌から情報を得ていることが明らかになっている。そのため、引き続き、見やすさと学ぶ意欲の喚起の両面を意識した紙面づくりを進めていきたい。</p> <p>・「見やすさ」「使いやすさ」「探しやすさ」の向上、「便利で役立つ」情報提供を図ることができた。また、業者に委託しなくても職員が直接ホームページの更新及び管理ができるようになったことで、常に最新の情報提供を行うことができた。</p>	<p>・公の施設がその設置目的を果たすためには、市民への適切な情報提供が必要不可欠である。 HPのリニューアルにより更新・管理が容易になるなど、HPの内容充実に向けた取組は見られるが、現在の掲載内容については見直しの余地があると考えられる。生涯学習の普及振興のためには、「貸室」と「講座」の受付機能のみならず、実施結果を含め、センターが取り組んでいる事業情報を発信していくことが重要である。</p>

2 自主事業その他					
▽ 自主事業		A	B	C	D
①ちえりあ寄席					
<p>▼ 公益社団法人落語芸術協会と連携した。</p> <p>▼ 本格的な寄席を鑑賞する機会を提供するため、寄席囲いをしつらえた舞台上、真打はもとより、道内で唯一、前座、二つ目、色物も出演する寄席を公益社団法人落語芸術協会と連携し行った。主な出演者は、桂米助、瀧川鯉昇、桂文治ほか(9月28日～9月30日) 【実績】4公演928名</p>		<p>・落語鑑賞の場を提供するのみではなく、北海道大学落語研究会の学生が運営に携わるなど事業への市民参加も図った。</p>			<p>・寄席関連事業を通して、長年にわたり、市民が伝統芸能に親しむ機会を提供してきたことについては評価したい。 自主事業については、収益性を意識した事業展開を期待したい。</p>
②西区ときわ大学(再掲)					
<p>▼ 西区役所から委託され、高齢者対象の「西区ときわ大学」を全15回のカリキュラムで実施した。ご近所先生を講師として活用するなど、市民による学び合いを推進した。(9～10月) 【実績】15回50名</p>		<p>・本事業開始から12年が経過し、市内及び近隣市でも落語事業が活発に行われるようになり、落語文化の普及啓発といった当初の目的が一定程度達成されたことから、本年度をもって「ちえりあ寄席」を始めとする一連の落語事業は終了することとする。</p>			
③ 東区年輪大学(再掲)					
<p>▼ 東区役所から委託され、高齢者対象の「東区年輪大学」を全16回のカリキュラムで実施した。ご近所先生を講師として活用するなど、市民による学び合いを推進した。(6～8月) 【実績】16回39名</p>		<p>・行政と連携し、センターの持つネットワークやスキルを生かした講座を通じて、まちづくり活動に参加するきっかけづくりをはじめとした多様な学習機会を提供した。</p>			
		<p>・卒業後に同期会が発足するなど、学びによるコミュニティの醸成に成功し、高齢者の社会参画の機会にも繋げることができた。</p>			

<p>▽ 収益事業</p> <p>①レストラン事業</p> <p>▼ ちえテラスに隣接したスペースにおいてカフェ事業を運営し、来館者へ飲食等を提供した。</p> <p>②自動販売機事業</p> <p>▼ 売上高4,978千円(計画 4,400千円)</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>▼ 委託業務、物品の購入などは、市内の企業に発注を心がけた。</p> <p>▼ 一部清掃業務は(公社)札幌市母子寡婦福祉連合会に発注した。</p> <p>▼ 障害者雇用(平成29年度 1名)</p>	<p>サークル活動の後に打合せや調べ物をするなど幅広い用途で利用されており、来館者の生涯学習活動に対する補完的な空間づくりやリラックスできる居場所づくりをすることができた。</p> <p>・カフェ運営に伴い減収を見込んでいたが、周辺施設への観光客を含め来館者が増加したことで、計画を上回る売上手数料収入につなげることができた。</p> <p>・委託、物品の発注等は、市内企業を積極的に活用することができた。</p>	<p>・利用者の利便性向上に資する取組として評価する。</p> <p>自主事業については、サービスの向上と収益性の両面を見据えた事業展開を期待する。</p>
---	---	--

## 3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果		・職員の接遇及び総合的満足度について指定管理業務の仕様書に記載のある要求水準を上回ることができた。	A	B	C	D
実施方法	メディアプラザ利用者、貸室利用者、講座受講者、期間中の主催事業参加者を対象に記述式のアンケートを実施。 (期間:平成30年2月1日～3月30日)					
結果概要	<p>2月から3月中で実施。 予定では2月中で終了としていたが、回答数が最低必要数(500枚)に到達しなかったために3月まで延長して行った。 メディア・プラザ及び2階センター事務室において、アンケートに寄せられた意見及びそれに対する回答を掲示することとする。 利用者を対象に接遇などの満足度を測るアンケートを2月～3月に実施したところ、総合満足度は約81.6%で、要求水準の80%を上回ることができた。(集計枚数:560枚)</p> <p>●職員の接遇 大変良かった:39.7% まあ良かった:33.3% 普通:25.7% あまり良くなかった:0.9% 悪かった:0.4%</p> <p>●今後の利用 利用したい:99.3% 利用したくない:0.7%</p> <p>●総合的満足度 とても満足:29.5% まあ満足:52.1% 普通:17.1% 少し不満:0.9% 不満:0.4%</p>					<p>・総合満足度について、本指定期間を通じて、要求水準である80%を達成した。職員が継続して丁寧な対応を心掛け、取組を進めてきた成果であると認められる。 アンケートにより管理運営の見直しにつながるよう、引き続き、項目や実施時期の見直しなどの内容充実に努めていただきたい。</p>
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【意見】洗剤などの合成香料の匂いで具合が悪くなる化学物質過敏症の人にも配慮するよう、利用者に啓発してほしい。</p> <p>【対応】柔軟剤や香水などの香りによって、不快に感じたり、頭痛や吐き気がするといった悩みを抱える人がいることを周知するポスターを館内に掲示した。</p>					

## 4 収支状況

## ▽ 収支 (千円)

項目	H29計画	H29決算	差(決算-計画)
収入	483,100	480,548	▲ 2,552
指定管理業務収入	459,727	456,290	▲ 3,437
指定管理費	356,783	356,783	0
利用料金	84,720	81,084	▲ 3,636
その他	18,224	18,423	199
自主事業収入	23,373	24,258	885
支出	498,759	487,796	▲ 10,963
指定管理業務支出	468,336	461,570	▲ 6,766
自主事業支出	30,423	26,226	▲ 4,197
収入-支出	▲ 15,659	▲ 7,248	8,411
利益還元			0
法人税等	35	506	471
純利益	▲ 15,694	▲ 7,754	7,940

## ▽ 説明

- ▼ 利用料金収入とは、施設利用料や物件使用料、駐車場利用料などであり、計画より3,636千円の減となった。
- ▼ その他収入とは、さっぽろ市民カレッジ受講料やオペラシアターを受講料が主なものであり、199千円の増であった。
- ▼ 自主事業収入は、ちえりあ寄席等の入場料収入や自動販売機、飲食店の売上手数料収入などであり、885千円の増となった。
- ▼ 退職や育児休業などで欠員が発生し、定数を下回る職員数で業務を執行することとなったことで、人件費が抑制された。
- ▼ 指定管理業務支出の内訳では、さっぽろ市民カレッジにおいて、市民ニーズ等を勘案し講座のカリキュラム回数を減らしたことにより、講師への諸謝金の支出が抑えられた。また、光熱水費は計画より2,971千円の支出増となったが、その分事務・事業を見直し経費削減を図ったこと等により、最終的に計画より6,766千円の減となった。
- ▼ 自主事業支出の内訳で、平成30年度以降の寄席事業廃止に向けて事業規模を縮小し、支出が削減となったこと等により、計画より4,197千円の減となった。

・西区民センターの改修によりH28年度は施設利用率、利用料収入が増したが、H29年度においては西区民センターの改修が完了した影響で利用率、利用料収入が共に減少した。

・気候の影響により光熱水費は例年の平均支出額を大きく上回った。また、業務の効率化・合理化など事務・事業の見直しを進め、委託費等の経費削減を図った。

・今後は利用料金等における増収を図るとともに、収支改善に向けた取組を計画的に進めていく必要がある。

A	B	C	D
自主事業の積極的な見直しにより、赤字幅を縮小したことは評価できる。引き続き、収支改善に向けた取組を進めていただきたい。			

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。		
▽ 安定経営能力の維持		適 不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応		適 不適
<ul style="list-style-type: none"> <li>▼ 札幌市個人情報保護条例の趣旨にのっとり「公益財団法人札幌市生涯学習振興財団が保有する個人情報の保護に関する規定」及び「個人情報の取扱いについて」を制定し、個人情報を適正に管理した。</li> <li>▼ 管理サイト全体の暗号化、個人情報パスワード保護に加えチェック体制の強化に努めている。</li> <li>▼ 主な個人情報について、紙媒体は鍵付きキャビネットで、電子データはパスワード管理にて、厳格な保守管理の下、適正に取扱っている。</li> <li>▼ 情報公開については、ホームページ上で個人情報の取扱いについて、基準及び規程を公開している。</li> <li>▼ 財団の定款、役員名簿、事業計画、事業報告、財務諸表等をホームページで公開しており、センターの運営状況の積極的な情報開示を行っている。</li> <li>▼ 受託者やその他契約の相手方について、「札幌市暴力団の排除の推進に関する条例」と「暴力団の排除にかかる照会事務マニュアル」に基づき、暴力団を排除している。</li> </ul>		

### Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
さっぽろ市民カレッジでは、センター職員に加え、ちえりあ学習ボランティアやご近所先生（市民講師）の企画・運営による講座のほか、大学や企業とも連携した講座を実施したことで、多様な学習機会を提供することができた。また、開講時間の変更（早朝開催ほか）や開催場所の工夫（都心部）など、受講しやすい環境に配慮し企画の幅を広げることで、市民ニーズに応えることができた。	「生涯学習のまちづくり」を具現化するために、多様な学習機会の提供はもちろんのこと、「ご近所先生」と講師バンクとの連動を図ることで、身近な地域で市民が経験や学んだ成果を生かせるよう、引き続き取り組んでいく。また、第3次生涯学習推進構想に基づき「知の拠点」である図書館との連携を図り、市民に身近な場所での学習機会の拡大を図っていく。
学んだ成果を生かしたい市民を公募し、講師として育成を図る、さっぽろ市民カレッジ「ご近所先生企画講座」を、区民センターや地区センター、町内会等と共催で実施し、「市民の学び合い」をコンセプトに、地域における新たな学習コミュニティづくりを進めることができた。	市民の多種多様な学習ニーズに応えるため、事業内容の充実を引き続き検討していく。さっぽろ市民カレッジでは、開講時間や会場等も工夫するなどし、学習支援の一層の充実を図る。また、地域の人材の発掘を図るため、ご近所先生（市民講師）の募集PRなどを強化していく。



<p>さっぽろ市民カレッジなどの講座をはじめ、センター主催の様々な事業において、地域や関係団体とのコーディネートを行なうことができた。</p>	<p>各区民センターや地区センター、町内会などと連携し、地域会場で実施する講座を増やしていくことで、地域における新たな学習コミュニティづくりを更に進めていく。</p>
<p>貸室事業については、インターネットを活用したWeb仮予約システムを新たに導入したことにより、貸室申込者の利便性向上を図ることができた。</p>	<p>ホール利用のさらなる促進のために、新たな利用料金割引制度の導入など利用率向上に向けた取り組みを進めていく。</p>
<p>生涯学習センター主催事業やさっぽろ市民カレッジ及び施設の情報などを提供する広報誌「ら・ちえりあって」を発行し、その内容の充実、事業PR等を積極的に行ったことから、広報誌を通じて、さっぽろ市民カレッジをはじめとするセンター事業を多くの市民に知っていただくことができた。</p>	<p>多くの市民が生涯学習センター主催事業やさっぽろ市民カレッジなどの情報を入手するための広報媒体となっていた「広報さっぽろ」が、5月号からイベント情報を掲載しないということになった。来場者及び受講者を得るための中心的な広報媒体の見直しにより、来場者・受講者数減少に伴う参加費・受講料収入の大幅な減少が予想される。そのため、これに変わる広報手段について、早急に検討していく必要がある。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>・さっぽろ市民カレッジについては、要求水準である120講座を大幅に上回る298講座を実施し、数の充実が図られただけでなく、区民センター等の地域会場での実施講座数をさらに充実させるなど、H28年度末に策定された「第3次札幌市生涯学習推進構想」に則った取組も見られた。</p> <p>本構想では、生涯学習センターを核に据えた施策が多数あることから、次期指定期間においても、本構想実現に向けて中核施設としての役割が果たされることを期待したい。</p> <p>・貸室事業について、本指定期間の目標値であった79.9%を達成したほか、平等利用促進に向けた取組を進めるなど、利用者目線での施設運営が行われたと評価できる。</p> <p>・自主事業の見直しにより、収支状況は昨年度に比べると改善された。赤字収支については、長期的には安定した事業運営に影響を及ぼしかねないことから、引き続き、収支の改善に努めていただきたい。</p>	<p>・生涯学習センターが取り組んでいる人材登録・紹介制度である「ちえりあ市民講師バンク」について、H29年度についても、その利用実績は芳しくなかった。センターでは、市民講師をはじめ、既に多数の生涯学習に携わる人材を育成している。この育成した人材と、地域の学習ニーズを結びつける仕組みとして、「ちえりあ市民講師バンク」を機能させていく必要がある。人材登録の仕組みやPRの充実だけでなく、利用者にとって利用しやすい仕組み・人材紹介方法になっているかなど、利用者目線での改善が必要である。</p> <p>・本市において生涯学習の更なる普及啓発を図るためには、その中核施設である生涯学習センターの取組をより一層丁寧発信していく必要がある。特にHPでは、事業の開催周知のほか、事業の実施結果についても発信することで、センターの取組に対する理解が深まるほか、他者の学習の様子を通じて生涯学習に対する興味関心を持ってもらうこともできる。また、さっぽろ市民カレッジを中心に、参加者層が異なる事業も多いことから、SNSを活用するなど、参加者に合わせた情報発信にも取り組んでいくことが必要である。</p> <p>・業務の効率向上のためには、業務量の偏りを是正し、職員間で補助し合えるような仕組みづくりが不可欠である。引き続き、業務運営体制の見直しに取り組んでいただきたい。</p>

平成29年度 (公財)札幌市生涯学習振興財団・生涯学習センター研修会参加一覧

	研修会等名	主催団体	日程	会場	参加者
1	平成29年度全国生涯学習センター等研究交流会	国立教育政策研究所	5/25(木)～26(金)	国立教育政策研究所社会教育実践研究センター(東京)	事業課学習企画係2名
2	平成29年度公益社団法人全国公立文化施設協会定時総会・研究大会(久留米大会)	公益社団法人全国公立文化施設協会	6/8(木)～9(金)	久留米シティプラザ	施設課施設係
3	平成29年度第1回ホール連絡協議会	北海道青少年会館 Compass	6/22(木)	北海道青少年会館 Compass	施設課施設係
4	服務規律研修	内部研修	7/10(月)	札幌市生涯学習センター	施設課施設係14名 事業課学習企画係13名 事業課メディア・視聴覚係12名
5	北海道舞台芸術情報フェア2017	公益財団法人北海道文化財団	7/10(月)～11(火)	札幌市教育文化会館	事業課学習企画係2名
6	文化施設等の天井耐震化対策研修会	日本耐震天井施工協同組合	7/24(月)	北海道自治労会館	施設課施設係
7	専門図書館協議会平成29年度北海道地区研修会	専門図書館協議会北海道地区連絡会	8/7(月)	藤女子大学北16条キャンパス	事業課メディア・視聴覚係
8	平成29年度ホームページウェブアクセシビリティ研修(基礎)	札幌市	8/24(木)	生涯学習センター	施設課施設係長 施設課施設係 事業課学習企画係
9	自立型プロ社員育成研修	札幌商工会議所	9/6(水)	北海道経済センター	施設課施設係
10	防火管理技能講習会	札幌市防火管理者協会	9/7(木)	札幌コンベンションセンター	施設課施設係 事業課学習企画係
11	第59回北海道図書館大会	北海道図書館振興協議会	9/7(木)～8(金)	札幌学院大学	事業課長 事業課メディア・視聴覚係8名
12	特定建築物や受水槽等の維持管理に関する講習会	札幌市	9/28(木)	WEST19	施設課施設係
13	第103回全国図書館大会東京大会	公益社団法人日本図書館協会	10/12(木)～13(金)	国立オリンピック記念青少年総合センター	事業課メディア・視聴覚係
14	甲種防火管理・防災管理新規講習	札幌市	12/5(火)～6(水)	札幌市民防災センター	施設課施設係長
15	自衛消防業務講習	札幌市	1/18(木)～19(金)	札幌市民防災センター	施設課施設係
16	自衛消防業務講習	札幌市	3/1(木)～2(金)	札幌市民防災センター	施設課施設係長
17	第21回視聴覚教育総合全国大会・第68回放送教育研究会全国大会 合同大会	全国放送教育研究会連盟事務局・一般財団法人 日本視聴覚教育協会	10/27(金)～28(土)	せんだいメディアテーク・東北学院大学土樋キャンパス・ホーイ記念館	事業課メディア・視聴覚係
18	公共ホール・集会施設等スタッフのための映像技術セミナー	一般社団法人 日本音響家協会	9/25(月)	札幌サンプラザホール	施設課施設係
19	平成29年度出資団体事務連絡協議会研修会	札幌市出資団体事務連絡協議会	11/7(火)	中島体育センター	施設課施設係
20	平成29年度「防火管理セミナー」	札幌市防火管理者協会	12/5(火)	道新ホール	施設課施設係
21	図書館員の実践力養成研修	札幌市中央図書館	1/24(水)	アスティ45	事業課メディア視聴覚係
22	平成29年度第2回ホール連絡協議会	北ガス文化ホール(千歳市民文化センター)	1/23(火)	北ガス文化ホール(千歳市民文化センター)	施設課施設係

	研修会等名	主催団体	日程	会場	参加者
23	平成29年度ホームページウェブアクセシビリティ研修(基礎)	札幌市	1/16(火)～17(水)	わくわくホリデーホール	施設課施設係3名
24	全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会2018	文化庁・公益社団法人全国公立文化施設協会	1/17(水)～19(金)	国立オリンピック記念青少年総合センター	施設課施設係 事業課学習企画係
25	第13回「人づくり・地域づくりフォーラムin山口」	公益財団法人山口県ひとづくり財団	2/17(土)～18(日)	山口県セミナーパーク	事業課学習企画係
26	ハラスメント研修	内部研修	1/24(水)	生涯学習センター	施設課施設係 8名 事業課長 事業課学習企画係 7名 事業課メディア視聴覚係 6名
27	メンタルヘルス研修	内部研修	1/30(火)	青少年科学館	施設課施設係 5名 事業課長 事業課学習企画係 6名 事業課メディア視聴覚係 2名
28	メンタルヘルス研修	内部研修	2/7(水)	生涯学習センター	施設課施設係 6名 事業課学習企画係 4名 事業課メディア視聴覚係 6名
29	フィードバック研修	札幌市中央図書館	3/14(水)	アスティ45	事業課メディア視聴覚係 1名
30	新採研修(プロパー)	内部研修	4/1～3	生涯学習センター	施設課施設係 1名 事業課学習企画係 3名
31	新採研修(契約職員)	内部研修	4/1	生涯学習センター	事業課メディア・視聴覚係 2名
32	新採研修(契約職員)	内部研修	10/1	生涯学習センター	事業課メディア・視聴覚係 1名
33	新採研修(契約職員)	内部研修	11/1	生涯学習センター	施設課施設係 1名
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					
41					
42					

▽ 生涯学習センター貸室別利用件数等

		H27実績	H28実績	H29計画	H29実績			H27実績	H28実績	H29計画	H29実績
ホール	件数(件)	562	598	571	613	研修室1	件数(件)	728	738	729	720
	人数(人)	111,098	123,153	117,609	126,913		人数(人)	8,263	9,210	9,102	9,303
	稼働率(%)	67.5	73.3	70.0	75.8		稼働率(%)	94.0	94.2	93.1	93.7
音楽スタジオ1 (副調整室)	件数(件)	753	750	683	743	研修室2	件数(件)	627	617	624	652
	人数(人)	7,075	7,709	7,020	7,027		人数(人)	9,958	10,287	10,396	11,315
	稼働率(%)	96.0	95.1	86.6	94.5		稼働率(%)	83.1	84.7	85.6	85.9
音楽スタジオ2	件数(件)	866	819	803	813	研修室3	件数(件)	538	575	561	602
	人数(人)	7,515	8,614	8,446	8,273		人数(人)	6,646	7,200	7,027	8,058
	稼働率(%)	98.9	97.7	95.8	97.1		稼働率(%)	76.5	83.3	81.3	84.1
演劇スタジオ1	件数(件)	765	817	811	857	研修室4	件数(件)	495	474	486	489
	人数(人)	11,304	17,052	16,931	19,945		人数(人)	6,210	6,144	6,304	6,383
	稼働率(%)	97.7	98.3	97.6	97.4		稼働率(%)	74.2	76.9	78.9	74.4
演劇スタジオ2	件数(件)	827	786	782	806	研修室5	件数(件)	537	556	539	559
	人数(人)	7,077	9,001	8,955	8,480		人数(人)	6,981	7,982	7,733	9,251
	稼働率(%)	95.4	98.0	97.5	98.8		稼働率(%)	82.5	83.3	80.7	82.4
サークル活動室1	件数(件)	867	847	836	829	研修室6	件数(件)	499	524	522	542
	人数(人)	7,079	7,188	7,093	7,097		人数(人)	6,496	7,409	7,381	9,096
	稼働率(%)	98.3	98.6	97.3	97.7		稼働率(%)	81.4	80.1	79.8	81.3
サークル活動室2	件数(件)	823	793	789	801	コンピュータ 研修室	件数(件)	242	260	319	262
	人数(人)	10,072	8,067	8,025	8,807		人数(人)	4,302	4,082	5,016	4,271
	稼働率(%)	95.1	96.3	95.8	95.1		稼働率(%)	50.4	50.7	62.3	49.6
サークル活動室3	件数(件)	674	737	705	713	アトリエ	件数(件)	333	355	383	333
	人数(人)	9,262	9,613	9,195	9,087		人数(人)	4,648	5,048	5,444	5,020
	稼働率(%)	87.7	94.2	90.1	93.1		稼働率(%)	65.0	62.5	67.4	63.7
サークル活動室4	件数(件)	618	629	650	667	陶芸室	件数(件)	214	250	260	222
	人数(人)	9,701	10,104	10,444	10,649		人数(人)	2,246	2,605	2,714	2,235
	稼働率(%)	86.5	86.2	89.1	92.2		稼働率(%)	48.4	57.6	60.0	52.4
サークル活動室5	件数(件)	637	630	601	618	映像スタジオ	件数(件)	485	567	456	510
	人数(人)	9,932	9,580	9,134	10,116		人数(人)	10,032	11,365	9,150	10,606
	稼働率(%)	87.7	90.2	86.0	87.9		稼働率(%)	78.2	86.7	69.8	81.0
大研修室	件数(件)	486	507	410	510	講堂	件数(件)	439	491	451	448
	人数(人)	25,346	29,761	24,039	33,426		人数(人)	49,890	58,045	53,307	55,572
	稼働率(%)	72.5	74.9	60.5	74.9		稼働率(%)	69.6	73.5	67.5	68.3
中研修室1	件数(件)	476	536	465	494	和室・茶室	件数(件)	426	428	367	422
	人数(人)	15,883	17,599	15,282	19,679		人数(人)	3,523	3,823	3,281	3,631
	稼働率(%)	72.2	79.0	68.6	77.8		稼働率(%)	70.8	70.6	60.6	70.6
中研修室2	件数(件)	595	585	525	595	全体	件数(件)	14,512	14,869	14,331	14,820
	人数(人)	17,738	16,517	14,825	21,077		人数(人)	368,277	407,158	392,424	425,317
	稼働率(%)	87.7	85.9	77.1	89.0		稼働率(%)	80.7	82.9	79.9	82.4

●H29計画値について

稼働率のH29計画値は、指定管理者提案書(H26～H29)の中で提出した目標数値に基づく値となっている。  
件数及び人数の計画値は算出していないため、稼働率の計画値でH28実績を割り返し、目安の数値を出している。